

# ビジネスとマネジメントで考える今後の日本男子バスケットボール界

## The discussion about the future Japanese men basketball world from in a viewpoint of business and the management

1K03A026-0 岩隈隆士

指導教員 主査 中村好男 先生 副査 倉石平 先生

### 第1章 スポーツを取り巻く環境

ここ数十年間で、スポーツに対する捉え方が大幅に変わってきている。それまではスポーツは、やる人だけが楽しむものであったり、健康のためにやるものであった。もちろんその要素は現在においても存在する。しかし、近年のスポーツは見る人、見たい人、見て楽しむ人の増加により、今までにない盛り上がりがある。

スポーツ界における転機は1984年のロサンゼルス・オリンピックである。この頃からスポーツの商業化が芽生え、今日ではスポーツとメディアは切り離すことができないものになっている。その結果、ルール変更が行われたり、またエンターテインメントの要素を付け加えるなど、スポーツというものがどんどん変化していき複雑になっている。

### 第2章 日本男子バスケットボールの現状

このような状況の中で日本男子バスケットボール界の今後について論述するが、その前にバスケットボールの現状、歴史を踏まえることにする。そもそもバスケットボールは1891年、カナダ人であるジェームス・ネイスミス博士によって発明されたものである。日本にバスケットボールを伝えたのは、国際YMCAトレーニング・スクールへ留学していた大森兵蔵である。時は1909年であり、バスケットボールが誕生して18年後のことである。現在においてバスケットボール競技の普及、発展を中心となっているJABBA(財団法人日本バスケットボール協会)は1976年に設立された。

そして現在のトップリーグは2つ存在する。1つはJABBAの直轄であるJBLであり、もう1つは、昨年開幕したbjリーグ(日本プロバスケットボールリーグ)である。

JBLはスーパーリーグ(1部)と日本リーグ(2部)に分かれている。スーパーリーグはプロではなくアマチュアであり、日本特有の企業スポーツなので現在に至ってはさまざまな議論を呼ぶことになっている。

一方、bjリーグはJABBAと対立し発足した日本初のプロリーグである。そして運営形態はJリーグやプロ野球など既存のプロリーグとは違って斬新的なものになっている。代表的なものはシングルエンティティモデルとサラリーキャップ制度を導入したことである。この2つは日本

バスケットボール界の身の丈にあった形態といえる。

### 第3章 考察

日本におけるバスケットボールはまだまだ発展途上であり、もっと盛り上がる可能性がある。それは競技人口の多さ、事業規模、アリーナへの好影響、純粋なバスケットボールファンの多さが挙げられるからである。

そこでスーパーリーグの日立サンロッカーズなどさまざまなチームでの監督経験を持ち、日本のバスケットボール界について詳しい早稲田大学助教授の倉石平にインタビューを行った。そのインタビューで得られたものは現在日本バスケットボール界が危機的状況を迎えていることであり、その打開策について多角的な視点から意見をいただいた。

それらを参考にこれからのバスケットボール界は2つの改善点があると考えた。それは「育成システムの充実」と「トップリーグの活性化」である。

育成システムについてはすでにJABBAは「エンデバー育成システム」を実行している。しかしそれは世界の強国が行っている育成システムと比較すると「時代遅れ」と言わざるを得ない。今後は世界の強国が行っているようなシステムを参考に日本独自育成システムが必要である。

また、現在2つ存在している日本のトップリーグを一刻も早く和解し、1つのトップリーグにするべきだ。なぜならスーパーリーグはアマチュアであるが日本代表になることができるのに対し、bjリーグはプロであるが日本代表になることができない。この複雑な関係を打開しなければ双方のトップリーグはともに衰退していくだろう。

以上の改善点を克服すれば、近い未来日本男子バスケットボール界も世界の強国と争うことになり、日本においてもバスケットボールは野球、サッカーに次ぐメジャースポーツと成り得るだろう。